

第280回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年7月25日（月）午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長 兼 報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	羽田 朗
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子

4 議 題

1) 番組合評

「NNN ドキュメント' 11 大地のリレー “被災地” に 移住する若者たちスペシャル」

[放送：6月26日（日）24：50～25：20]

(説明：番組プロデューサー 羽田 朗)

2) 会社報告

①BPO 放送倫理検証委員会決定（6月30日）

「BS11『“自”論対論 参議院発』に関する意見」

(報告：編成局長・番組審議会事務局長 駒形 正明)

②BPO 放送倫理検証委員会決定（7月6日）

「テレビ東京『月曜プレミア！主治医が見つかる診療所』に
関する意見」

「毎日放送『イチハチ』に関する意見」

(報告：編成局長・番組審議会事務局長 駒形 正明)

③6月の視聴者の意見。(報告：番組審議会事務局)

④講じた措置、公表など定例の報告等。(報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組は7年前の中越地震で被災した集落を舞台にしたドキュメント番組であり、「NNN ドキュメント' 11」でも3.11東日本大震災以降「震災」をテーマにしたシリーズ化した番組を作ってきており、今回新潟のテレビ局発で7年経つ

た中越地震の被災地の姿を伝えていくことが東日本大震災の被災地へ向けて何かメッセージになるかもしれないという思いで番組を制作したものであることなどを報告した。

●池谷集落の四季折々の美しさや自然の移り変わりと、そこに移住してきた若者たちの移住の過程などを長期に亘って丁寧に取材していた。復興の明るい兆しを感じられて心温まるよい番組だと思った。

●多田さんが池谷集落へ移住することになる時の奥様の悩みと、それとは対照的な子供の明るさや集落の自然に溶け込んでいる様子などは、小さな子供がいる頃を思い出して自然と一緒にいたいという気持ちになるのも見ていて共感できる気がした。

●集落のお年寄り達が閉鎖的だろうと先入観を持っていたところ、外部の若い人たちを受け入れている様子が自然で、共同作業や集会で互いになじんでいく感じがよく伝わってきた。

●3.11 東日本大震災の前に番組を見ていたら印象はどうだったろうかと考えた。人間関係に疲れた若者や生きていく意味を見出したい若者たちがボランティアでやってきて移住することはあるとその程度に思ったかもしれないが、東日本大震災の後に見ると他人事ではなく感じられて、一人一人が「もしかして自分でも何かできるんじゃないか」「これから何ができるか」ということを真剣に考えさせてくれる良い番組だと思った。

●ボランティアで集落に入ることと、そこに「住む」ということは全然違うことだと思う。この若者たちが本当に住んで幸せに生きていけるのか、とても心配で、最後まで心配で見っていた。

●番組では苦労して家族を説得して移住するまでの過程と、集

落に入ってもらって喜んでいる地元の人たちを映していたが、受け入れてくれた地元の人たちも5年後、10年後には介護される側に回っているかもしれない年齢であり、いろいろ考えれば本当に大丈夫なのかなと心配になる。行政はどう考えているのかも気になった。

●実際、中越地震後にいろんなことがあったし綺麗ごとやその時だけの盛り上がりだけでは続かないものがすごく沢山あった。そのところがよく見えてこない。番組としては纏まっていて良かったがその答えは見えないまま番組が終わってしまった感じがあると思った。

●ドキュメンタリーは見ている人に考えさせる番組だと思う。美しい自然や集落の様子を見て、その一方で限界集落に対してどこまで支えたらいいのかと感じ、いろいろと考えながら見てしまったのでドキュメンタリーとして良い番組だと思った。

●数人の心ある人がボランティアをやったり、移住しようというのではなく、田んぼで収穫祭などのキャンペーンを毎年やっていてずっとそういう活動を続けてきた中から特別にボランティアの思いを持っている人や移住まで考える人が出てきたというのは良くわかった。

●よそ者には気をつけろとずっと言われ続けてきたけど、そうではなくて都会の人との交流は大切なんだということを被災地の方々や農村の方々へアピールできていると思った。

●転職し移住してしまうことに対して心配する面もあるが、見方を変えればこれは新たなベンチャー、新たな冒険なんだと感じた。無謀だし、危険だし、というのは起業したりするのと同じだと感じた。

●中越地震の後遺症に加えて過疎高齢化に苦しむ集落が実際には限界集落の意識面での最先端を行っている現実を思い知った。

●「あの地震が無ければ生まれなかった絆」というのは的を射た言葉だと思った。

●集落を企業の事業所やプロジェクトに置き換えれば採算性などの評価で消滅ということも想定されるもの。村を故郷を離れることについて取り上げる時、感傷的な評価だけでやっていいものかと思う。都市部では住まいを変わるというのは日常的に行われていることであり、企業倒産などによる失業やリストラ、個人的な離婚など様々な理由で起こりうるもの。消滅した集落とそこに居た人たちのその後についても取材して欲しかった。

●現在の仕事に満足できず池谷に行けば自分を必要としてくれるという話について、個人的には現実逃避であり自己満足ではないかと思う。ボランティアで通うことは否定しないがボランティアと移住とは全く別の事であり、非常に違和感を感じた。

●番組タイトル「“被災地”に移住する若者たち」についてギャップを感じる。結婚して集落を出ていく若者もいる。身分保障、生活保障が無い中で地域支援員として頑張る若者でも続かないケースが多い。移住する若者たちの将来が見えてこない中で、将来像をイメージで植えつけてしまう可能性もあると思う。慎重に扱うべきテーマであり様々な問題を残した内容でもあった。

●「人間の生き甲斐の見つけ方」について、老後の生活の決め方と違って若い人の生き甲斐探しは分からないまま取り組んでいる感じがする。まだ若いので一つの勉強だと思えば将来のためになるかもしれない。「今思う生き甲斐」の中で行動している

ということについては尊敬に値すると思った。

●番組で紹介されていた若者たちが 10 年後、20 年後に集落に居続けるかどうか懸念が残るが、非常に難しいテーマに取り組んでおり今後も定点観測的に取材や放送を続けて行って欲しいと思う。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

6月……149件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成 23 年 6 月 27 日) から 昨日(平成 23 年 7 月 24 日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

1) 前回、第 279 回審議会では「テレビ新潟開局 30 周年記念番組 がんばる新潟人スペシャル」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第 280 回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 6月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 6月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（6/23, 7/3, 13号）
- ・ BPO 報告（No. 99号）

以上